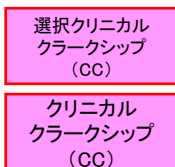


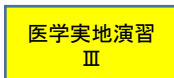
7. 次世代の育成、教育能力

1. 建学の精神、学是、教育理念を次世代へ継承することができる。

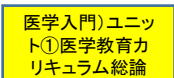
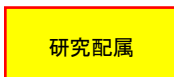
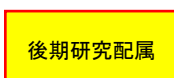
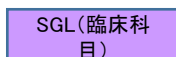
A



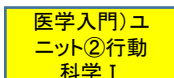
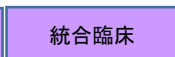
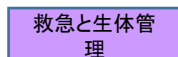
B



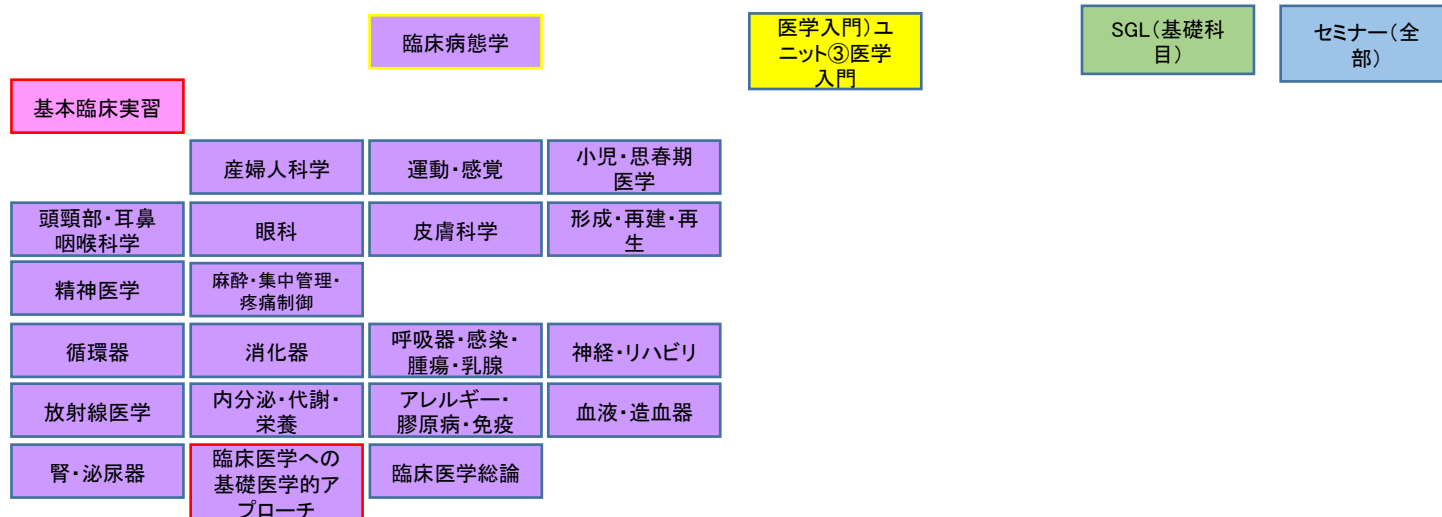
C



D



E



【評価方法の概略】 詳細は各科目のシラバスに記す。

レベルD: 間接的ではあるが客観試験、論述試験の項目に加味されている。医学入門②ではレポートにより評価を行う。

レベルC: 医学入門①では上級生を交えて行うBLS実習の観察記録、研究配属ではリサーチマインドの涵養と継承に対する姿勢を観察記録で評価する。臨床科目SGLでは上級生がco-tutorとして参加するが、必修ではないため形成的評価に留める。ポートフォリオの活用による形成的評価を加える。

レベルB: 医学実地演習Ⅲでは講師以上の教員に対するシャドウイングが行われ、レポートによる評価が行われる。

レベルA: クリニカル・クラークシップにおいては屋根瓦式教育が行われ、指導医の観察記録、mini-CEX、指導責任者による口頭試問、一部360°評価により行われる。新たに導入するCCポートフォリオを用いて省察の態度・習慣を教員、上級生が評価する。

7.次世代の育成、教育能力

2.グループ活動やチーム医療においてリーダーシップを発揮し、メンバーの指導、支援を行うことができる。

A

選択クリニカル
クラークシップ
(CC)

クリニカル
クラークシップ
(CC)

基本臨床実習

B

C

SGL(臨床科目)

医学実地演習
Ⅲ

医学実地演習
Ⅱ

医学実地演習
Ⅰ

医学入門)ユニ
ット③医学
入門

衛生学・公衆
衛生学

薬理学

解剖学(生体
構造学)

生理学(システ
ム生理学)

微生物学・免
疫学

病理学
(解析人体病
理学)

生化学・分子
生物学(代謝・
栄養学)

SGL(基礎科
目)

法医学

分子解剖学(発
生・組織・分子細
胞医学)

生理学(生体
統御学)

病理学
(統御機構・腫
瘍学)

生化学・分子
生物学(分子
遺伝学)

生物学実験

外国語)ユニ
ット①英語 I
(D)

臨床医学総論

D

E

統合臨床

救急と生体管
理

産婦人科学

運動・感覚

小児・思春期
医学

頭頸部・耳鼻
咽喉科学

眼科

皮膚科学

形成・再建・再
生

精神医学

麻酔・集中管理・
疼痛制御

循環器

消化器

呼吸器・感染・
腫瘍・乳腺

神経・リハビリ

放射線医学

内分泌・代謝・
栄養

アレルギー・
膠原病・免疫

血液・造血器

腎・泌尿器

基礎医学総論 I)
分子解剖学(発生・
組織・分子細胞医
学)

セミナー(全
部)

【評価方法の概略】 詳細は各科目のシラバスに記す。

レベルD: 間接的ではあるが客観試験の項目に加味されている。

レベルC: 医学入門③、およびSGLではTutorもしくは同僚が評価を行う。基礎SGLでは薬学部の教員、学生(co-Tutor)によるレポートの評価が加わる。

医学実地演習では担当教員、指導看護師などが観察記録とレポート評価を行う。その他グループによる実習のある科目は全て協同学習態度に関して教員の観察記録による評価が加えられる。ポートフォリオの活用による形成的評価を加える。

レベルB: 基本臨床実習では指導教員、SPIによる評価が行われるがこれは形成的評価が主体である。

レベルA: クリニカル・クラークシップにおいては屋根瓦式教育が行われ、指導医の観察記録、一部360° 評価により行われる。

新たに導入するCCポートフォリオを用いて省察の態度・習慣を教員、上級生が評価する。

7.次世代の育成教育能力

3.チーム医療において、リーダーシップを発揮し、チームのマネージメントを行うことができる。

A

選択クリニカル
クラークシップ
(CC)

クリニカル
クラークシップ
(CC)

基本臨床実習

B

医学実地演習
Ⅲ

医学実地演習
Ⅱ

医学実地演習
Ⅰ

C

臨床医学総論

D

医学入門)ユ
ニット③医学
入門

SGL(基礎科
目)

E

	統合臨床			
救急と生体管理	産婦人科学	運動・感覚	小児・思春期医学	
頭頸部・耳鼻咽喉科学	眼科	皮膚科学	形成・再建・再生	
精神医学	麻酔・集中管理・疼痛制御			
循環器	消化器	呼吸器・感染・腫瘍・乳腺	神経・リハビリ	
放射線医学	内分泌・代謝・栄養	アレルギー・膠原病・免疫	血液・造血器	
腎・泌尿器			SGL(臨床科目)	

基礎医学総論Ⅰ)
分子解剖学(発生・組織・分子細胞医学)

セミナー(全部)

【評価方法の概略】 詳細は各科目のシラバスに記す。

レベルD: 間接的ではあるが客観試験の項目に加味されている。

レベルC: 医学実地演習では担当教員、指導看護師などによる観察記録とレポートによる評価を行う。

レベルB: 基本臨床実習では指導教員、SPIによる評価が行われるがこれは形成的評価が主体である。

レベルA: クリニカル・クラークシップにおいては屋根瓦式教育が行われ、指導医の観察記録、一部360° 評価により行われる。

新たに導入するCCポートフォリオを用いて省察の態度・習慣を教員、上級生が評価する。

7.次世代の育成、教育能力

4.同僚や後進に医師となる上で必要な知識、技能、習慣についての指導、助言ができる。

A

選択クリニカル
クラークシップ
(CC)

クリニカル
クラークシップ
(CC)

基本臨床実習

B

SGL(臨床科目)

医学実地演習
Ⅲ

SGL(基礎科目)

医学実地演習
Ⅱ

衛生学・公衆衛生学

薬理学

法医学

医学実地演習
Ⅰ

解剖学(生体構造学)

分子解剖学(発生・組織・分子細胞医学)

特別プログラム
(1年)

生理学(システム生理学)

生理学(生体統御学)

医学入門)ユニット①医学教育カリキュラム総論

病理学(解析人体病理学)

病理学(統御機構・腫瘍学)

医学入門)ユニット③医学入門

微生物学・免疫学

生化学・分子生物学(代謝・栄養学)

生化学・分子生物学(分子遺伝学)

生物学実験

セミナー(全部)

物理学)ユニット②物理学実験

化学)ユニット②化学実験

外国語)ユニット①英語 I (D)

C

D

統合臨床

行動科学Ⅲ

救急と生体管理

産婦人科学

運動・感覚

小児・思春期医学

行動科学Ⅳ

頭頸部・耳鼻咽喉科学

眼科

皮膚科学

形成・再建・再生

精神医学

麻酔・集中管理・疼痛制御

E

循環器

消化器

呼吸器・感染・腫瘍・乳腺

神経・リハビリ

腎・泌尿器

内分泌・代謝・栄養

アレルギー・膠原病・免疫

血液・造血器

臨床医学総論

基礎医学総論 I)
分子解剖学(発生・組織・分子細胞医学)

基礎科学)ユニット①医療心理学

【評価方法の概略】 詳細は各科目のシラバスに記す。

レベルD:

レベルC: 医学入門①、③、SGLではTutorもしくは同僚が評価を行う。医学実地演習では担当教員、指導看護師などが観察記録とレポート評価を行う。

その他グループによる実習のある科目は全て協同学習態度に関して教員の観察記録による評価が加えられる。ポートフォリオの活用による形成的評価を加える。

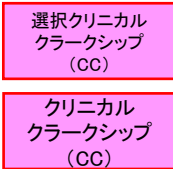
レベルB: 基本臨床実習では指導教員、SPIによる評価が行われるがこれは形成的評価が主体である。

レベルA: クリニカル・クラークシップにおいては屋根瓦式教育が行われ、指導医の観察記録、mini-CEX、指導責任者による口頭試問、一部360° 評価により行われる。新たに導入するCCポートフォリオを用いて省察の態度・習慣を教員、上級生が評価する。

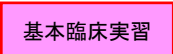
7.次世代の育成、教育能力

5.教育活動を通じて自らの学びが深まることを省察できる。

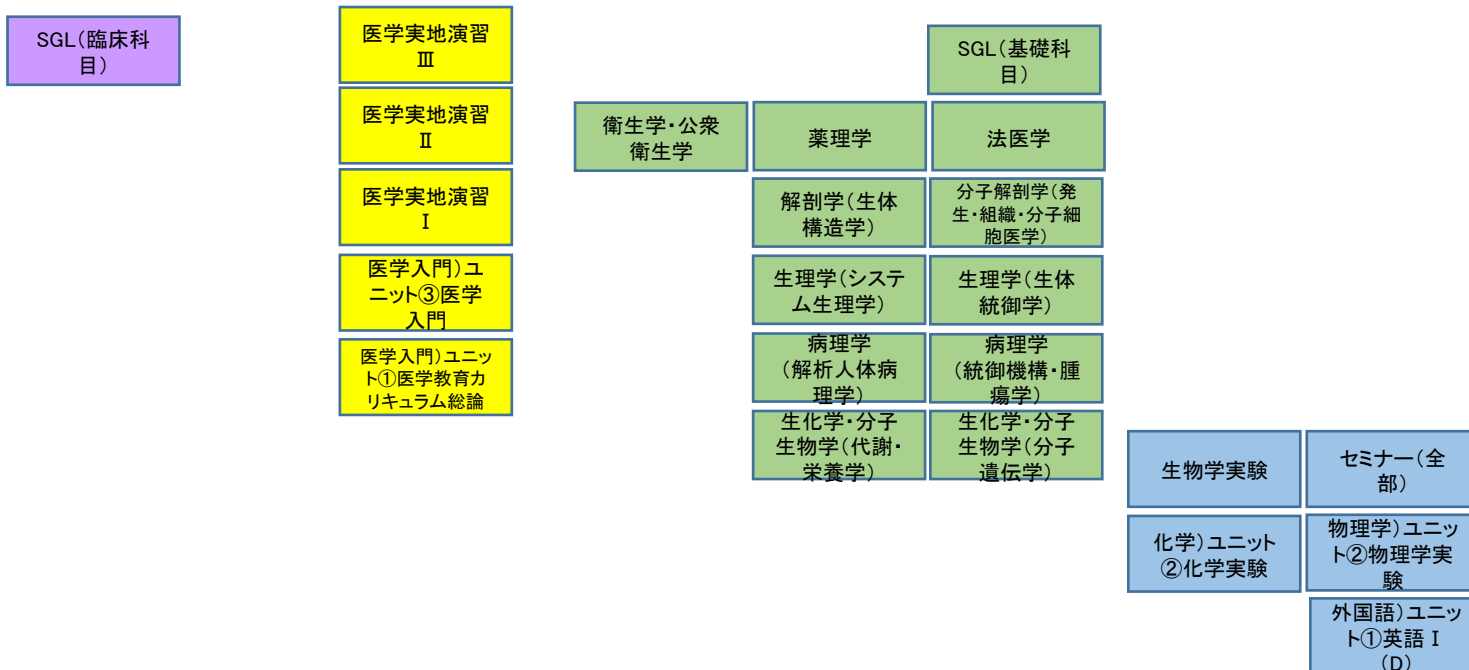
A



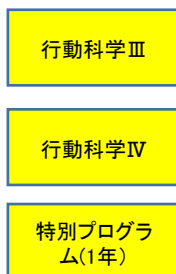
B



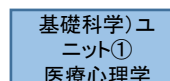
C



D



E



【評価方法の概略】 詳細は各科目のシラバスに記す。

レベルD:

レベルC: 医学入門Ⅲ、およびSGLではTutorもしくは同僚が評価を行う。基礎SGLでは薬学部の教員、学生 (co-Tutor)によるレポートの評価が加わる。

臨床科目SGLでは上級生がco-tutorとして参加するが、必修ではないため形成的評価に留める。

医学実地演習では担当教員、指導看護師などが観察記録とレポート評価を行う。

その他グループによる実習のある科目は全て協同学習態度に関して教員の観察記録による評価が加えられる。ポートフォリオの活用による形成的評価を加える。

レベルB: 基本臨床実習では指導教員、SPIによる評価が行われるがこれは形成的評価が主体である。

レベルA: クリニカル・クラークシップにおいては屋根瓦式教育が行われ、指導医の観察記録により評価が行われる。

新たに導入するCCポートフォリオを用いて省察の態度・習慣を教員、上級生が評価する。